成長型

第５期末（2020年９月25日）	
基準価額	12,077円
純資産総額	4,079百万円
騰落率	△4.4%
分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

安定型

第５期末（2020年９月25日）	
基準価額	11,351円
純資産総額	2,342百万円
騰落率	△3.8%
分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

交付運用報告書

GCIエンダウメントファンド
（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

第５期＜決算日 2020 年９月 25 日＞

作成対象期間：2019年９月26日～2020年９月25日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）」は、このたび第５期の決算を行いました。

当ファンドは、投資対象ファンド（投資信託証券）を通じて先進国、新興国を含む世界各国の株式、債券、REIT等に分散投資することで、グローバルな経済成長に沿った収益の獲得を目指します。また、グローバル分散投資によりポートフォリオのリスク低減を図ることとしており、かかる投資方針に沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

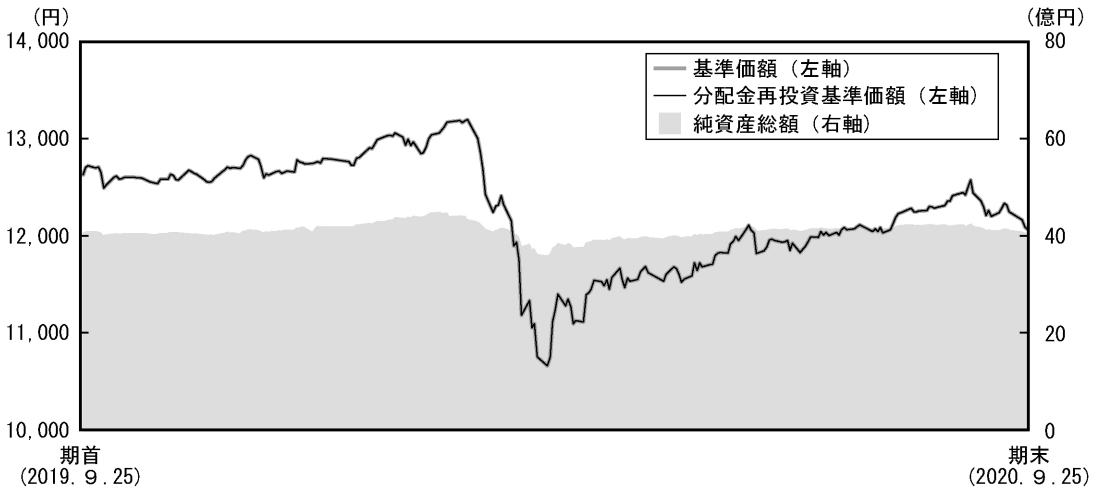
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント
東京都千代田区西神田3-8-1
お問い合わせ先（投信ビジネス・グループ）
TEL：03-3556-5040（営業日の９:00～17:00）
URL：https://www.gci.jp

運用経過

（成長型）

■基準価額等の推移



期　　首：12,637円
期　　末：12,077円（既払分配金（税引前）：0円）
騰 落 率：　△4.4%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

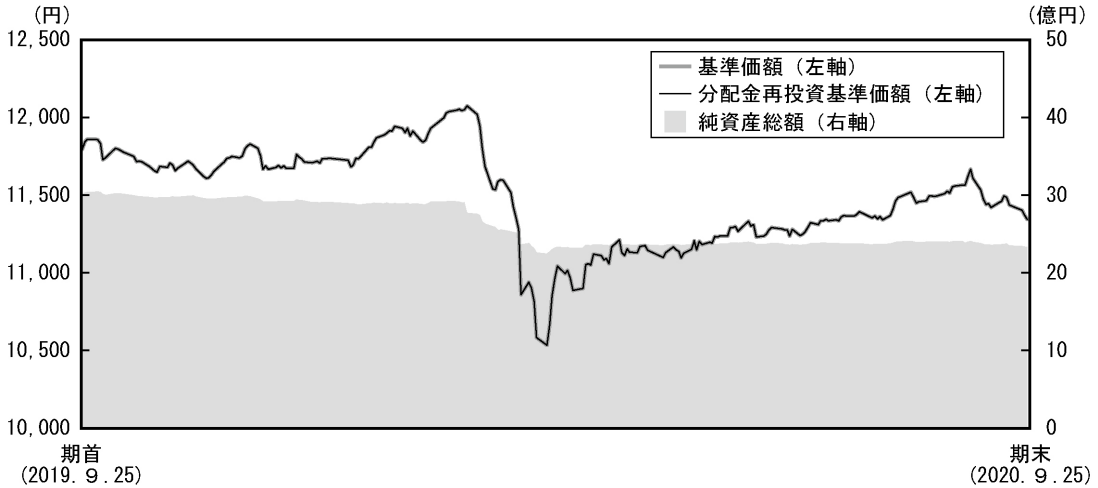
GCIエンダウメントファンド（成長型）の基準価額は下落し、当期間のリターンは△4.4%となりました。

期初から2020年２月半ばにかけては、米中貿易交渉の進展期待などを背景に株式市場が上昇し、当ファンドの基準価額も堅調に推移しました。しかし、2020年に入り中国で新型コロナウイルスの感染が流行し世界的に感染が拡大すると、株式市場は急落し、あらゆる金融資産が売られるパニック的な相場となりました。当ファンドが特徴としているオルタナティブ戦略のリターンも大きなマイナスとなり、当ファンドの基準価額も大幅に下落しました。その後は、各国の政府・中央銀行が巨額の経済対策と大規模な金融緩和策を決定したことで市場は落ち着きを取り戻し、株式市場は回復し、債券市場は上昇（金利は低下）基調となりました。当ファンドの基準価額も回復しましたが、オルタナティブ戦略が引き続き苦戦したこともあり、コロナショックによる下げを埋めることはできず、当期間を通じては、基準価額は下落となりました。

詳しくは「投資環境」をご参照ください。

（安定型）

■基準価額等の推移



期　　首：11,804円
期　　末：11,351円（既払分配金（税引前）：0円）
騰 落 率：　△3.8%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

GCIエンダウメントファンド（安定型）の基準価額は下落し、当期間のリターンは△3.8%となりました。

期初から2020年２月半ばにかけては、米中貿易交渉の進展期待などを背景に株式市場が上昇し、当ファンドの基準価額も堅調に推移しました。しかし、2020年に入り中国で新型コロナウイルスの感染が流行し世界的に感染が拡大すると、株式市場は急落し、あらゆる金融資産が売られるパニック的な相場となりました。当ファンドが特徴としているオルタナティブ戦略のリターンも大きなマイナスとなり、当ファンドの基準価額も大幅に下落しました。その後は、各国の政府・中央銀行が巨額の経済対策と大規模な金融緩和策を決定したことで市場は落ち着きを取り戻し、株式市場は回復し、債券市場は上昇（金利は低下）基調となりました。当ファンドの基準価額も回復しましたが、オルタナティブ戦略が引き続き苦戦したこともあり、コロナショックによる下げを埋めることはできず、当期間を通じては、基準価額は下落となりました。

詳しくは「投資環境」をご参照ください。

■１万口当たりの費用明細

（成長型）

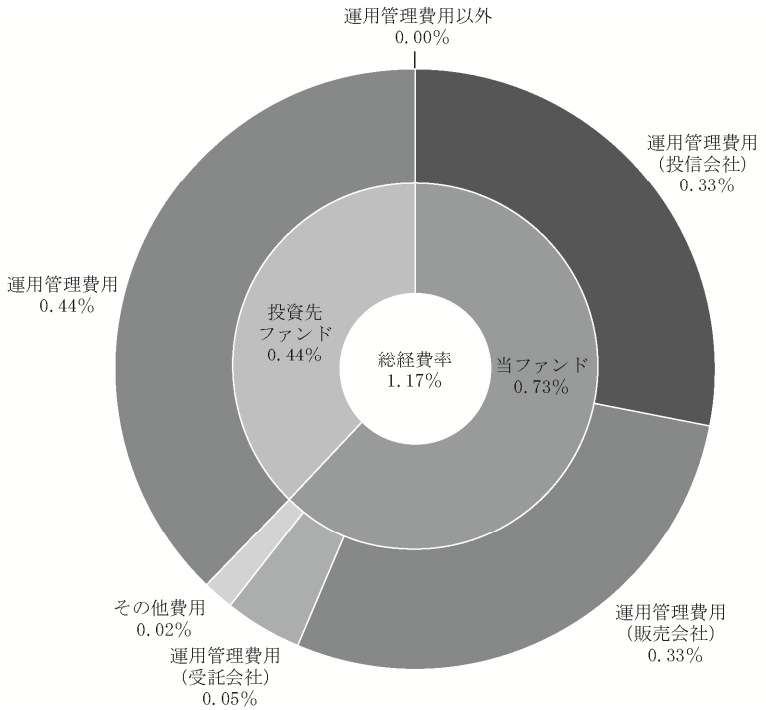
項目	第５期 2019年９月26日～2020年９月25日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	88円	0.715%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,300円です。
（投信会社）	(41)	(0.330)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
（販売会社）	(41)	(0.330)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(7)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.004	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10,000
（投資信託受益証券）	(1)	(0.004)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	2	0.016	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
（保管費用）	(1)	(0.005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.011)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	91	0.735	

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。
（注）各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資対象ファンド（投資信託証券）（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。当該投資対象ファンドの直近の計算期末時点における費用明細が取得できるものについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」に表示することとしています。
（注）各比率は、１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

（成長型）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.17%です。



（単位：%）

総経費率（①+②+③）	1.17
①このファンドの費用の比率	0.73
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.44
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00

（注）①の費用は、１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
（注）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。
（注）投資先ファンドの一部については、運用管理費用以外の費用が含まれていない場合があります。

（安定型）

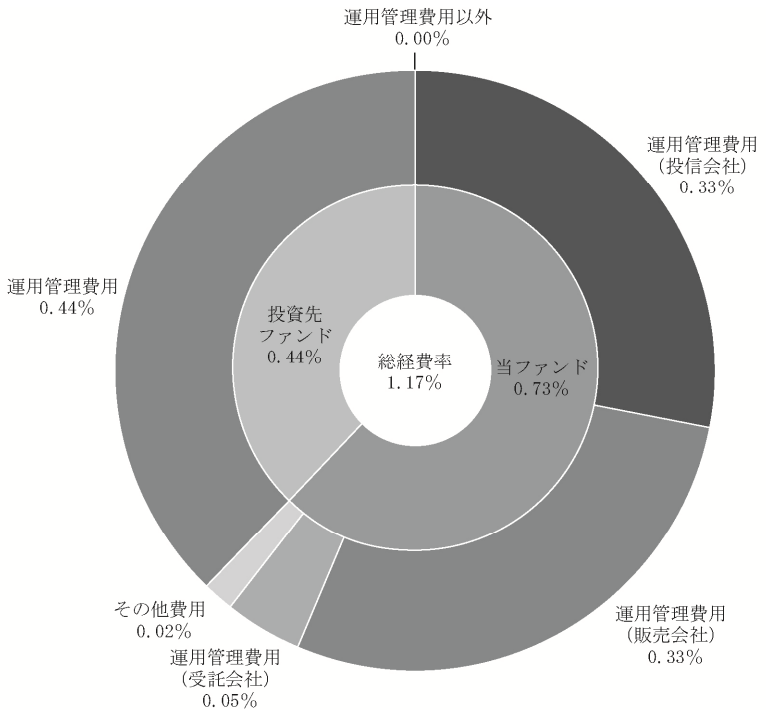
項目	第５期 2019年９月26日～2020年９月25日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	82円	0.715%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,529円です。
（投信会社）	(38)	(0.330)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
（販売会社）	(38)	(0.330)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(6)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.009	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数×10,000
（投資信託受益証券）	(1)	(0.009)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	3	0.023	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
（保管費用）	(1)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(2)	(0.017)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	86	0.747	

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。
（注）各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資対象ファンド（投資信託証券）（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。当該投資対象ファンドの直近の計算期末時点における費用明細が取得できるものについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」に表示することとしています。
（注）各比率は、１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

（安定型）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.17%です。



（単位：%）

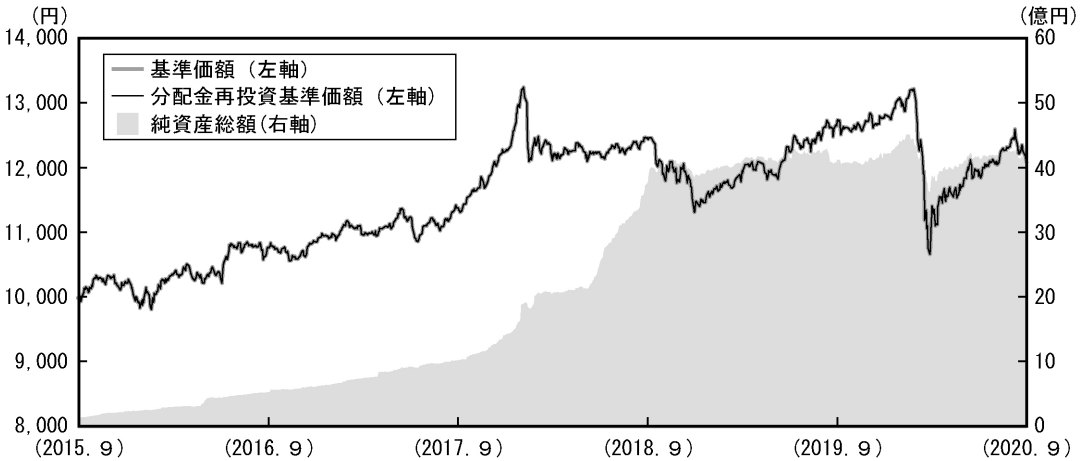
総経費率（①＋②＋③）	1.17
①このファンドの費用の比率	0.73
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.44
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00

（注）①の費用は、１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。
（注）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。
（注）投資先ファンドの一部については、運用管理費用以外の費用が含まれていない場合があります。

■最近５年間の基準価額等の推移

（成長型）　　（2015年９月25日～2020年９月25日）

最近５年間の推移



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご留意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近５年間の年間騰落率

	2015年９月25日 設定日	2016年９月26日 決算日	2017年９月25日 決算日	2018年９月25日 決算日	2019年９月25日 決算日	2020年９月25日 決算日
基準価額　（円）	10,000	10,767	11,386	12,444	12,637	12,077
期間分配金合計（税引前）（円）	－	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率　（%）	－	7.7	5.7	9.3	1.6	△4.4
純資産総額　（百万円）	163	554	1,040	3,747	4,072	4,079

（注）設定日の基準価額は１万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

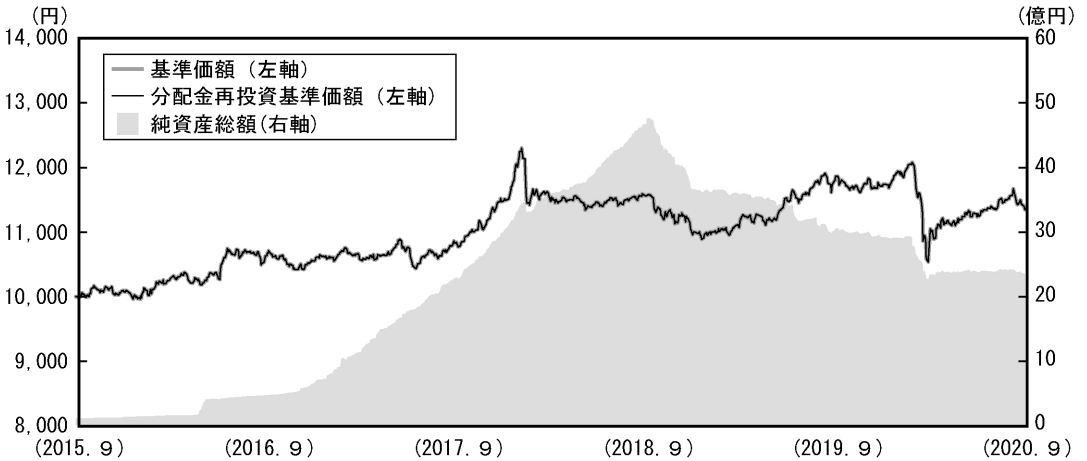
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しています。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。ただし、2016年９月26日の騰落率については、設定日との比較です。

（安定型）　　（2015年９月25日～2020年９月25日）

最近５年間の推移



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご留意ください。
（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近５年間の年間騰落率

	2015年９月25日 設定日	2016年９月26日 決算日	2017年９月25日 決算日	2018年９月25日 決算日	2019年９月25日 決算日	2020年９月25日 決算日
基準価額　（円）	10,000	10,637	10,839	11,565	11,804	11,351
期間分配金合計（税引前）（円）	－	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率　（%）	－	6.4	1.9	6.7	2.1	△ 3.8
純資産総額　（百万円）	108	464	2,287	4,672	3,023	2,342

（注）設定日の基準価額は１万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しています。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。ただし、2016年９月26日の騰落率については、設定日との比較です。

（成長型）／（安定型）

■投資環境

【先進国株式】

先進国株式市場は上昇しました。期初から2020年２月半ばにかけては、グローバルで金融緩和環境が続く中、米中貿易交渉に進展が見られたことなどからリスクオンの動きが強まり、世界的に株式市場は上昇しました。2020年に入ると中国で新型コロナウイルスの感染が流行し、２月後半から３月にかけては世界中に感染拡大が広がり、株式市場は2008年の金融危機時を上回るスピードで大きく下落しました。その後は、各国の政府・中央銀行が巨額の経済対策と金融緩和の強化を決定したことから市場は落ち着きを取り戻し、経済活動の再開状況や新型コロナウイルスの感染拡大およびワクチン開発の動向などを睨みながら、株式市場は回復基調となりました。米国の主要株価指数は、主力ハイテク企業の株価上昇にも牽引され、一時史上最高値を更新する場面も見られました。

【新興国株式】

新興国株式市場は上昇しました。期初から2020年初にかけては、米中貿易交渉の進展を受け中国株式を中心に新興国株式市場は堅調に推移しましたが、2020年に入り中国で新型コロナウイルスの感染が流行すると中国株式市場は急落し、世界的に感染が拡大するに連れて他の新興国株式市場も大きく下落しました。都市封鎖等の強力な措置により感染拡大に歯止めをかけ、経済活動を一早く再開した中国では、政府の強力なサポートもあり株式市場は７月に急上昇しました。他の新興国株式市場でも中国や先進国株式の上昇に連れて株価は回復しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が継続するなか、戻りの鈍い展開となりました。

【先進国債券】

先進国債券市場は上昇しました。期初から2019年末にかけては、米中貿易協議の進展期待により株式市場が上昇したことを受け国債利回りは上昇した一方、グローバルでの緩和的な金融環境を背景にクレジット・スプレッド（企業等の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り）は縮小し、債券市場は落ち着いた推移となりました。2020年に入り新型コロナウイルスの感染が拡大し始めると国債利回りは低下に転じましたが、コロナショックであらゆる金融資産が売られた局面では、債券市場も一時下落する場面も見られました。その後は、各国中央銀行による大規模な金融緩和策により国債利回りは低下、クレジット・スプレッドは縮小し、債券市場は堅調に推移しました。

【REIT市場】

REIT市場は下落しました。期初から2020年２月半ばにかけては、グローバルで緩和的な金融環境が継続するなか、堅調な不動産市況を背景にREIT市場も高値圏で推移しましたが、新型コロナウイルスの世界的な拡大により株式市場が急落すると、REIT市場も急落しました。その後は、各国の中央銀行が金融緩和を一段と強化しREIT市場は下げ止まったものの、経済活動の正常化には程遠く、コロナ後のオフィス需要が懸念されたことなどから戻りは鈍く、軟調な展開が続きました。

【オルタナティブ】
ヘッジファンド戦略はまちまちとなりました。期初から２月半ばにかけては、グローバルでの金融緩和環境が下支えし、株式市場が堅調に推移する安定的な市場環境の下、ヘッジファンド戦略全般も堅調に推移しました。コロナショックでは、リスク回避の動きが急速に広がり、あらゆる金融資産が一斉に売られるパニック的な相場となり、多くのヘッジファンド戦略も急落しました。その後は、各国政府・中央銀行の巨額の財政出動と大規模な金融緩和策により市場は落ち着きを取り戻し、ヘッジファンド戦略のパフォーマンスは回復しましたが、当期間を通じては、イベントドリブン戦略や債券・クレジット戦略などが上昇した一方、株式マーケットニュートラル戦略やCTA戦略などが下落するなど、戦略毎にまちまちの展開となりました。

【為替相場】
ドル円相場は、期初から２月半ばにかけては、株式市場が堅調に推移する安定的な市場環境のもと、やや円安ドル高基調で推移しましたが、コロナショックを受け米連邦準備制度理事会（FRB）が金融緩和姿勢を一段と強化し米国長期金利が低下したことなどからドル安に転じ、当期を通じては円高ドル安となりました。当ファンドはドル建て資産を保有していますが、為替リスクをヘッジしているため、為替市場の動向による影響は限定的です。

■当該投資信託のポートフォリオ

（成長型）
主として、各国のETFとヘッジファンド（GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスA）に投資しており、期初に定めた基本資産配分比率に従って運用を行いました。この基本資産配分比率は、長期間にわたり安定したパフォーマンスを実現してきた米国名門大学の基金（エンダウメント）が実践してきた投資手法・スタイルを模範とし、投資資産のうちリスク資産のウエイトを増やしつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。
組入ファンドの当期末時点における組入比率については、後掲の「当該投資信託のデータ」の「当該投資信託の組入資産の内容」をご参照ください。

（安定型）
主として、各国のETFとヘッジファンド（GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスA）に投資しており、期初に定めた基本資産配分比率に従って運用を行いました。この基本資産配分比率は、長期間にわたり安定したパフォーマンスを実現してきた米国名門大学の基金（エンダウメント）が実践してきた投資手法・スタイルを模範とし、投資資産のうちリスク資産のウエイトを抑制しつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して安定的な運用を行います。
組入ファンドの当期末時点における組入比率については、後掲の「当該投資信託のデータ」の「当該投資信託の組入資産の内容」をご参照ください。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

（成長型）／（安定型）

各ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

（成長型）

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】　（単位：１万口当たり・税引前）

項目		第５期
		2019年９月26日～2020年９月25日
当期分配金	（円）	―
（対基準価額比率）	（%）	―
当期の収益	（円）	―
当期の収益以外	（円）	―
翌期繰越分配対象額	（円）	2,076

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。
（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（安定型）

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】　（単位：１万口当たり・税引前）

項目		第５期
		2019年９月26日～2020年９月25日
当期分配金	（円）	―
（対基準価額比率）	（%）	―
当期の収益	（円）	―
当期の収益以外	（円）	―
翌期繰越分配対象額	（円）	1,429

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。
（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

（成長型）／（安定型）

当ファンドは2020年９月25日をもって、運用開始から満５年を迎えました。今回の年１回の基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）の見直しでは、基本資産配分の変更は行わなかったものの、その前提となるビッグ・ピクチャー（10年程度の時間軸でマクロ環境を俯瞰した投資環境の認識）については、これを機に５年ぶりに見直しを行いました。

2015年の運用開始以降、以下３つのポイントを提示してまいりました。

１．21世紀直前に本格化したグローバル化という世界史的イベントがもたらしたディスインフレ環境は、新興国経済の成熟と、世界規模で急速に進行する少子高齢化の影響もあり、長期化する。

２．中国など新興国経済の成長鈍化と米国経済独り勝ちの乖離が金融市場に影響を与える可能性がある。

３．2008年金融危機以降の主要国中央銀行による積極的金融緩和政策により、債券・株式をはじめとするほとんどの資産価格が上昇し続けており、その帰趨を注視する必要がある。

上記のビッグ・ピクチャーを５年を通じて維持してきましたが、今般、以下のように改めました。

１．グローバル化がさまざまな格差拡大や米中対立などの副作用を増長させた結果、その反動が顕在化しています。それでもなお、人類の自由への希求と技術革新が停滞するとは考えにくく、グローバル化という太く大きな潮流自体は不変だと思います。加えて、デジタル化（技術革新）や世界的な少子高齢化の影響もあり、ディスインフレ環境は長期化すると考えます。

２．グローバル化は人類による経済成長志向の自然な帰着でしたが、成長一本やりの限界あるいは弊害がさまざまな形で顕在化した結果、経済のみならず、環境や気候問題など、地球規模の「持続可能性」に対する問題意識が高まりつつあります。こうしたサステナビリティに対する認識と対応が実体経済と金融市場に与える影響は一層高まっていくのではないかと思います。

３．2008年以降の拡張的財政金融政策は、あらゆる資産価格の上昇と債務の増大をもたらしましたが、コロナショックは未曾有の政策対応を加速させています。結果的に、主要国の金利はほぼ消失しました。実質的な財政ファイナンスが各国で行われているともいえますが、いずれ、その持続可能性が大きなテーマになると思われます。とくに、米国債とドルの信用力を基に築かれた信用経済体制の根幹が問われるような可能性も念頭に置く必要があると考えています。

短期的には各国の政策が株式市場には追い風となりますが、それにも限界はあります。大規模な政策であるほど、正常化は容易ではなく、反動も大きくなる可能性があります。また、潜在的なリスクもいくらでも挙げることができます。簡単にいえば、「いつか大きな調整局面がくるのを覚悟の上で、政策と需給に支えらえた上昇相場についていく」ことが必要だと考えています。最善の対応は、「分散」とそれに基づくリスク管理です。

当ファンドは、どのような市場環境であっても、下落リスクを想定の範囲内に抑制することに努め、資産価値の保全を最優先しながら、長期的安定的な成長を目指してまいります。

お知らせ

（成長型）／（安定型）

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

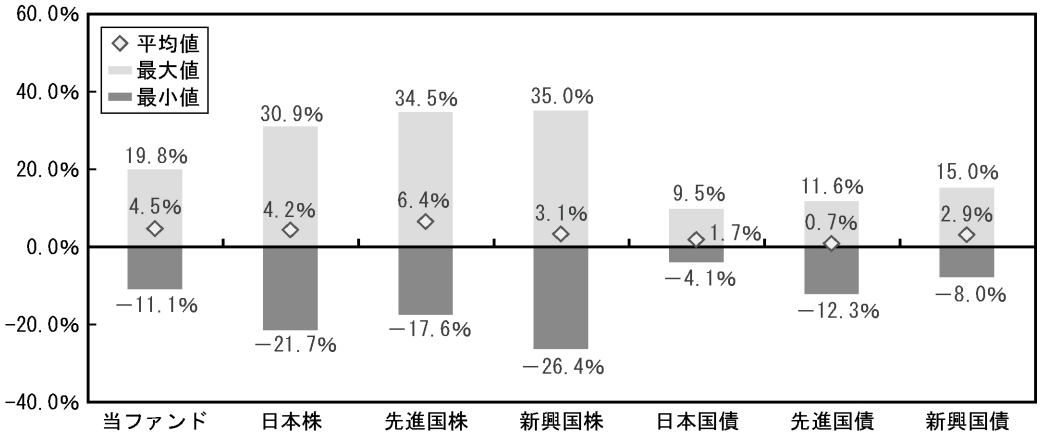
該当事項はありません。

当該投資信託の概要

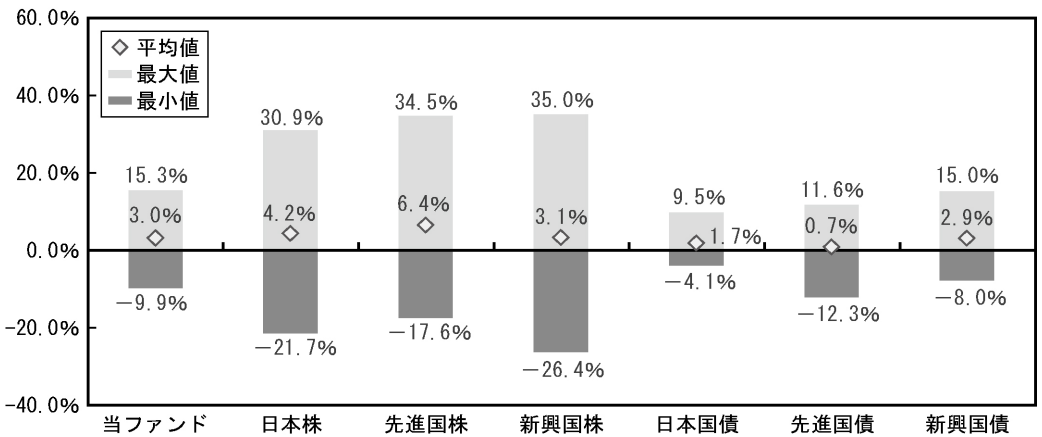
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	原則として無期限（2015年９月25日設定）	
運用方針	成長型	投資資産のうちリスク資産のウエイトを増やしつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。
	安定型	投資資産のうちリスク資産のウエイトを抑制しつつ、伝統的資産に加えてオルタナティブ資産・戦略を活用して分散されたポートフォリオを構築し、信託財産の長期的な成長を目指して安定的な運用を行います。
主要投資対象	以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ・TOPIX連動型上場投資信託 ・バンガード・S&P500 ETF ・バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF ・バンガード・FTSE・エマージング・マーケッツETF ・バンガード・米国トータル債券市場ETF ・バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり） ・NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信 ・バンガード・リアル・エステート ETF ・GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA ・GCIマネープールマザーファンド	
運用方法	投資対象ファンド（投資信託証券）を通じて先進国、新興国を含む世界各国の株式、債券、リートなどに分散投資することで、グローバルな経済成長に沿った収益の獲得を目指します。また、グローバル分散投資によりポートフォリオのリスク低減を図ります。	
分配方針	年１回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ※将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

（成長型）



（安定型）



期間：2015年９月～2020年８月

（注）当ファンドについては2016年９月～2020年８月の４年間、代表的な資産クラスについては2015年９月～2020年８月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注）当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

＜代表的な各資産クラスの指数＞
日 本 株：Morningstar日本株式指数
先進国株：Morningstar先進国株式指数除く日本
新興国株：Morningstar新興国株式指数
日本国債：Morningstar日本国債指数
先進国債：Morningstarグローバル国債指数除く日本
新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数

※全て税引前の利子・配当込みの指数値を使用しています。海外資産の指数については、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数値を使用しています。

≪各指数の概要≫
日 本 株 ：Morningstar日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar先進国株式（除く日本）指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstarグローバル国債（除く日本）指数 は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

＜重要事項＞
当ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または当ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。当ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstar インデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。
Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。
上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstar グループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

（成長型）

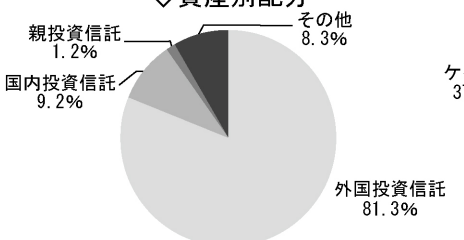
◇組入ファンド等

（組入銘柄数：10銘柄）

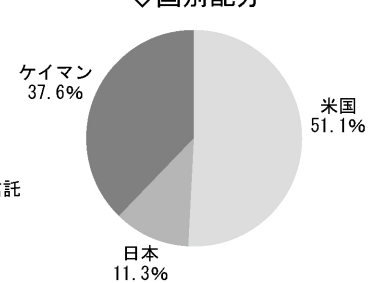
	第５期末 (2020年９月25日)
GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA	34.5%
バンガード・S&P500 ETF	16.5%
バンガード・米国トータル債券市場ETF	11.7%
バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	9.4%
TOPIX連動型上場投資信託	5.1%
NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	4.1%
バンガード・リアル・エステート ETF	3.9%
バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	2.8%
バンガード・FTSE・エマージング・マーケッツETF	2.5%
GCIマネープールマザーファンド	1.2%
その他	8.3%

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する各組入ファンドの評価額の比率です。
（注）上位３ファンドについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」をご参照ください。
（注）その他は現金・未払金等です。

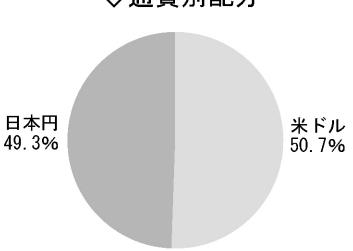
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。
（注）国別配分は、国・地域別による配分で比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。
（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

項目	第５期末 (2020年９月25日)
純資産総額	4,079,246,311円
受益権総口数	3,377,774,959口
１万口当たり基準価額	12,077円

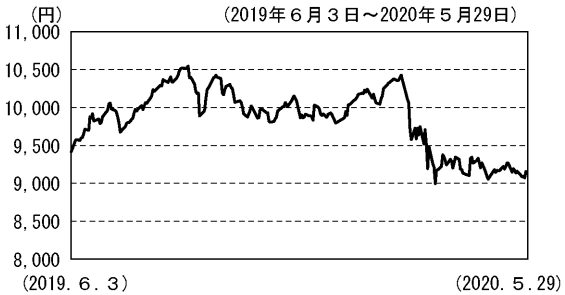
（注）当期中における追加設定元本額は1,278,253,472円、一部解約元本額は1,122,798,308円です。

■組入上位ファンドの概要

（成長型）

《GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA》

◇基準価額の推移



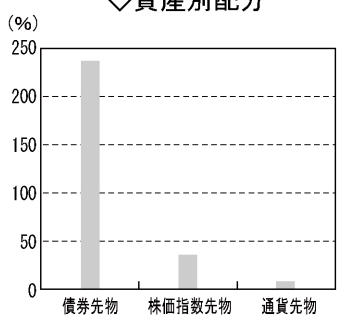
◇組入上位10銘柄

2020年５月29日

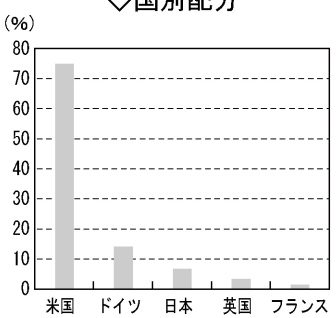
	銘柄名	種類	通貨	国	組入比率（%）
1	5-Yr US Treasury Note Futures Sep 20	債券先物	米ドル	米国	164.5
2	French 10-Year Bond Future Jun 20	債券先物	ユーロ	ドイツ	38.9
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 20	債券先物	米ドル	米国	21.1
4	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 20	株価指数先物	米ドル	米国	17.0
5	10-year JGB Futures Jun 20	債券先物	日本円	日本	13.3
6	FTSE 100 Index Futures Jun 20	株価指数先物	英ポンド	英国	9.1
7	Australian Dollar Futures Jun 20	通貨先物	米ドル	米国	7.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20	株価指数先物	日本円	日本	5.3
9	CAC-40 Index Futures Jun 20	株価指数先物	ユーロ	フランス	3.7
10	－	－	－	－	－
組入銘柄数					９銘柄

（注）銘柄は、GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAが実質保有している銘柄です。
（注）国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

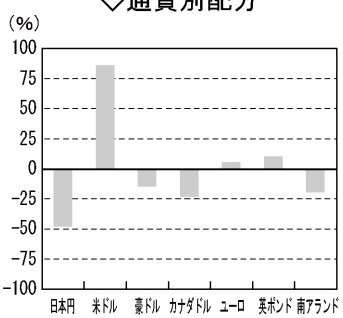
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



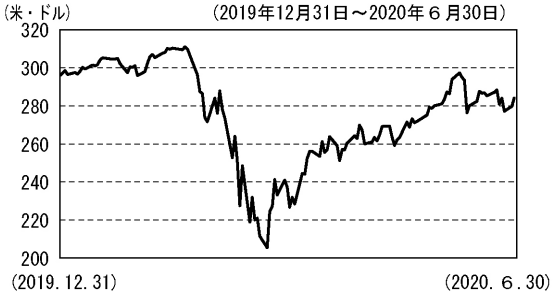
（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかるものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。
（注）国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。
（注）通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャーの割合であり、うち日本円は、他の通貨ごとのエクスポージャーを調整した割合です。

■組入上位ファンドの概要

（成長型）

《バンガード・S&P500 ETF》

◇基準価額の推移



◇費用明細

項目	比率
経費率（エクスペンス・レシオ）	0.03%

※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経費率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経費率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経費率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

◇組入上位10銘柄

2020年６月30日

	銘柄名	種類	通貨	組入比率（%）
1	Microsoft Corp.	株式	米ドル	5.97
2	Apple Inc.	株式	米ドル	5.75
3	Amazon.com Inc.	株式	米ドル	4.47
4	Facebook Inc.	株式	米ドル	2.11
5	Alphabet Inc.	株式	米ドル	1.64
6	Alphabet Inc.	株式	米ドル	1.61
7	Johnson & Johnson	株式	米ドル	1.43
8	Berkshire Hathaway Inc.	株式	米ドル	1.31
9	Visa Inc.	株式	米ドル	1.25
10	Procter & Gamble Co.	株式	米ドル	1.15
組入銘柄数				510銘柄

◇資産別配分

◇国別配分

◇通貨別配分

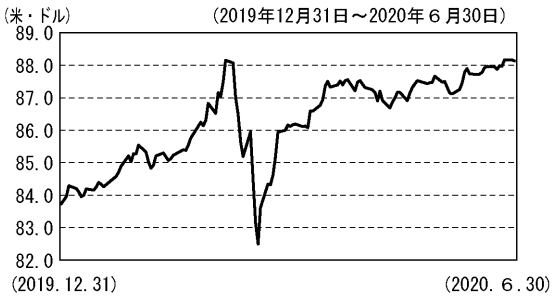
（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のものです。
（注）費用明細、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

■組入上位ファンドの概要

（成長型）

《バンガード・米国トータル債券市場ETF》

◇基準価額の推移



◇費用明細

項目	比率
経費率（エクスペンス・レシオ）	0.035%

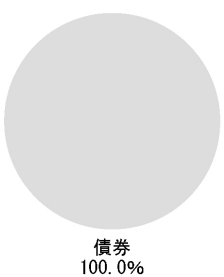
※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経費率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経費率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経費率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

◇組入上位10銘柄

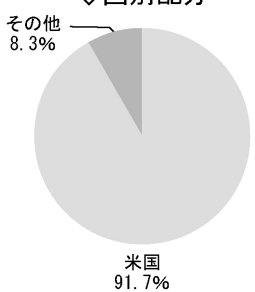
2020年６月30日

	銘柄名	種類	通貨	組入比率（%）
1	UMBS 30YR TBA(REG A) 2.5% 07/01/2050	モーゲージ証券	米ドル	0.60
2	UMBS 30YR TBA(REG A) 3% 07/01/2050	モーゲージ証券	米ドル	0.57
3	TREASURY BOND 1.25% 05/15/2050	債券	米ドル	0.49
4	TREASURY NOTE 0.63% 05/15/2030	債券	米ドル	0.48
5	TREASURY NOTE 2.88% 08/15/2028	債券	米ドル	0.43
6	TREASURY NOTE 2.13% 11/30/2024	債券	米ドル	0.42
7	TREASURY NOTE 2% 05/31/2024	債券	米ドル	0.41
8	TREASURY NOTE 1.5% 11/30/2024	債券	米ドル	0.41
9	TREASURY NOTE 2.25% 04/15/2022	債券	米ドル	0.39
10	TREASURY NOTE 0.25% 06/15/2023	債券	米ドル	0.39
組入銘柄数				8,742銘柄

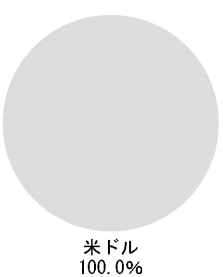
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のものです。
（注）費用明細、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

（安定型）

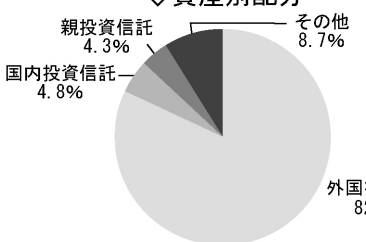
◇組入ファンド等

（組入銘柄数：９銘柄）

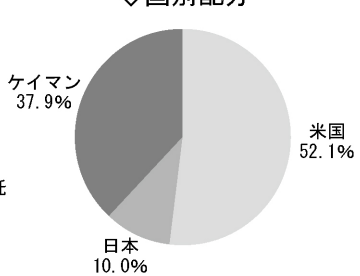
	第５期末 (2020年９月25日)
GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA	34.5%
バンガード・米国トータル債券市場ETF	25.2%
バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	8.4%
バンガード・S&P500 ETF	7.0%
バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	4.9%
GCIマネープールマザーファンド	4.3%
TOPIX連動型上場投資信託	2.5%
NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	2.3%
バンガード・リアル・エステート ETF	2.2%
その他	8.7%

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する各組入ファンドの評価額の比率です。
（注）上位３ファンドについては、後掲の「組入上位ファンドの概要」をご参照ください。
（注）その他は現金・未払金等です。

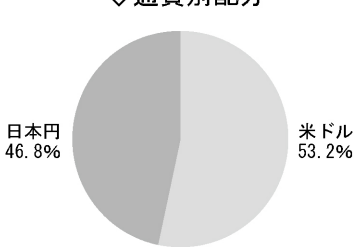
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。
（注）国別配分は、国・地域別による配分で比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。
（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

項目	第５期末 (2020年９月25日)
純資産総額	2,342,079,943円
受益権総口数	2,063,322,569口
１万口当たり基準価額	11,351円

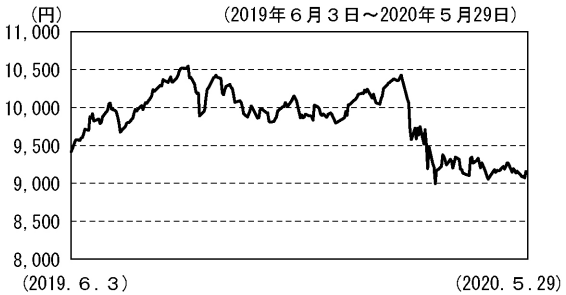
（注）当期中における追加設定元本額は396,199,725円、一部解約元本額は894,008,026円です。

■組入上位ファンドの概要

（安定型）

《GCIシステマティック・マクロファンド Vol 10 クラスA》

◇基準価額の推移



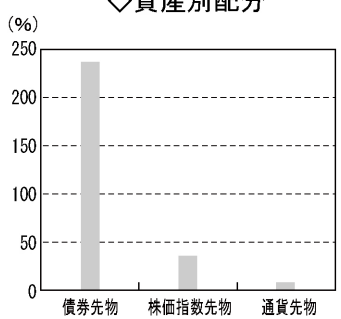
◇組入上位10銘柄

2020年５月29日

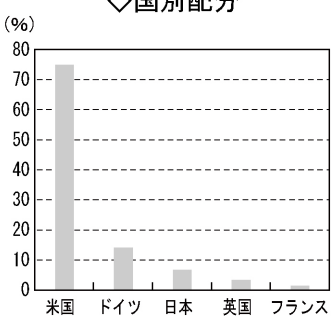
	銘柄名	種類	通貨	国	組入比率（%）
1	5-Yr US Treasury Note Futures Sep 20	債券先物	米ドル	米国	164.5
2	French 10-Year Bond Future Jun 20	債券先物	ユーロ	ドイツ	38.9
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 20	債券先物	米ドル	米国	21.1
4	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 20	株価指数先物	米ドル	米国	17.0
5	10-year JGB Futures Jun 20	債券先物	日本円	日本	13.3
6	FTSE 100 Index Futures Jun 20	株価指数先物	英ポンド	英国	9.1
7	Australian Dollar Futures Jun 20	通貨先物	米ドル	米国	7.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20	株価指数先物	日本円	日本	5.3
9	CAC-40 Index Futures Jun 20	株価指数先物	ユーロ	フランス	3.7
10	－	－	－	－	－
組入銘柄数					９銘柄

（注）銘柄は、GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAが実質保有している銘柄です。
（注）国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

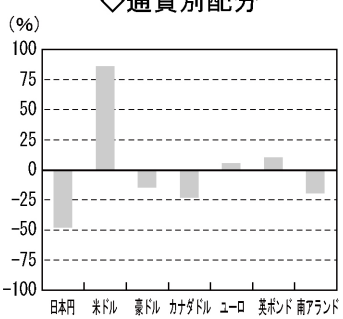
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



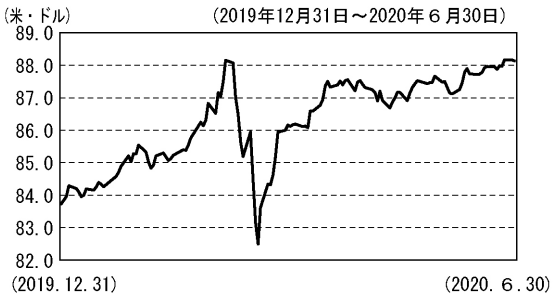
（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄等にかかるものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄等の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。
（注）国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。
（注）通貨別配分の比率は、組入ファンドの純資産総額に対する為替エクスポージャーの割合であり、うち日本円は、他の通貨ごとのエクスポージャーを調整した割合です。

■組入上位ファンドの概要

（安定型）

《バンガード・米国トータル債券市場ETF》

◇基準価額の推移



◇費用明細

項目	比率
経費率（エクスペンス・レシオ）	0.035%

※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経費率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経費率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経費率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

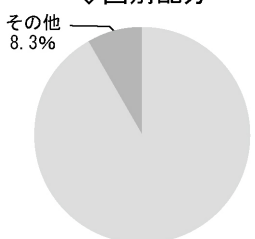
◇組入上位10銘柄

2020年６月30日

	銘柄名	種類	通貨	組入比率（%）
1	UMBS 30YR TBA(REG A) 2.5% 07/01/2050	モーゲージ証券	米ドル	0.60
2	UMBS 30YR TBA(REG A) 3% 07/01/2050	モーゲージ証券	米ドル	0.57
3	TREASURY BOND 1.25% 05/15/2050	債券	米ドル	0.49
4	TREASURY NOTE 0.63% 05/15/2030	債券	米ドル	0.48
5	TREASURY NOTE 2.88% 08/15/2028	債券	米ドル	0.43
6	TREASURY NOTE 2.13% 11/30/2024	債券	米ドル	0.42
7	TREASURY NOTE 2% 05/31/2024	債券	米ドル	0.41
8	TREASURY NOTE 1.5% 11/30/2024	債券	米ドル	0.41
9	TREASURY NOTE 2.25% 04/15/2022	債券	米ドル	0.39
10	TREASURY NOTE 0.25% 06/15/2023	債券	米ドル	0.39
組入銘柄数				8,742銘柄

◇資産別配分

◇国別配分



◇通貨別配分

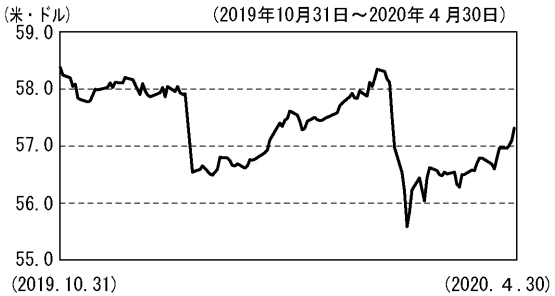
（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のものです。
（注）費用明細、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

■組入上位ファンドの概要

（安定型）

《バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）》

◇基準価額の推移



◇費用明細

項目	比率
経費率（エクスペンス・レシオ）	0.08%

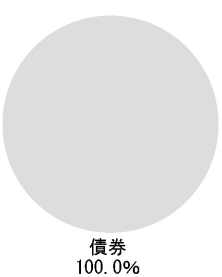
※一万口当たりの費用明細の情報が取得できないため、直近の目論見書より経費率（エクスペンス・レシオ）を記載しています。経費率とは、ファンドの平均資産残高に対する費用、その他の経費の比率（%）です。経費率は、ファンドの決算ごとに見直され、変動します。

◇組入上位 10 銘柄

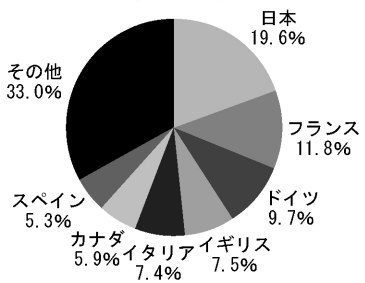
2020 年４月 30 日

	銘柄名	種類	通貨	組入比率（%）
1	GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 0% 02/15/2030	債券	ユーロ	0.72
2	ITALY (REPUBLIC OF) 3% 08/01/2029	債券	ユーロ	0.71
3	FRANCE (REPUBLIC OF) 1.75% 05/25/2023	債券	ユーロ	0.50
4	FRANCE (REPUBLIC OF) 0% 02/25/2022	債券	ユーロ	0.46
5	SPAIN GOVERNMENT BOND 1.25% 10/31/2030	債券	ユーロ	0.44
6	GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 0% 10/18/2024	債券	ユーロ	0.44
7	ITALY (REPUBLIC OF) 2.45% 10/01/2023	債券	ユーロ	0.43
8	ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.85% 07/01/2025	債券	ユーロ	0.43
9	FRANCE (REPUBLIC OF) 1.25% 05/25/2034	債券	ユーロ	0.42
10	ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 3.35% 03/01/2035	債券	ユーロ	0.39
組入銘柄数				6,170銘柄

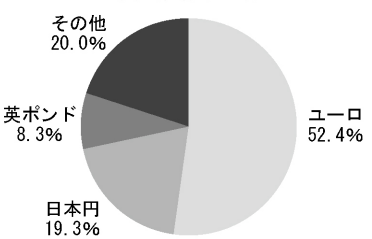
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



（注）基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間（中間計算期間を含む）のものです。
（注）費用明細、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日（中間決算日を含む）現在のものです。
（注）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。